

# 産学連携 活発に 人材育成



東大の「シャープ企業講義」(7月28日)

るのが特徴だ。2016年度で10年目を迎えた。運営する高橋琢一東大教授は「企業との関わりが少ない理系系の学生には特に、大きな刺激になっているようだ」と話す。

企業側も「我々の考えを伝え、その結果、意欲の高い学生が入社してくればありがたい」(鈴木教洋日立CTO「最高技術責任者」)、「NECのブランド構築の観点でも役に立つ」(西原基夫N



東工大で行われた暗号の授業(7月27日)

ユリテイの研修を行ってきたが、これを大学に無償で提供する。連携プログラム主催の田中圭介東工大准教授は「従来は縦割りだった教育と研究を結びつけて、体運営する学内初の試み」と話す。日進月歩の領域だけに、教育と研究の相乗効果を見込む。学内の制度改革を経て、ようやく開講にこぎ着けたという。履修希望者が殺到し、16年度は人数を絞らなければならない。

7月27日には、NRI「筑波クリエイティブ・カンパニー」の名義の上田健吾事業開発部長が、約30人の大学院生相手に暗号の基本概念を講義した。著名な暗号研究者が、出陣時に厳しいセキュリティー検査を受けるといった、業界のエピソードなども交えて学生に興味を誘った。セキュリティー人材が世界で不足する中で、互いが連携を構築して、「タイミンがぴったり合った」(松本伸夫NRI上級専門スタッフ)という。NRIは社会貢献への意識も強い。

**起業支援**  
方「アントレパッド」が開講した。初日は、つくばの研究者機関に在籍する研究者永田恭介学長自ら旗振り役を務め、学生の起業を支援する。筑波大発ベンチャーの数は東大に次ぐ多さ。筑波大出身の経営者には、LINE前社長の森川亮(東京)市つくばの、象徴で「都港区」社長や、ポケモン(同)の石原恒和社長、サイバーダイニングの社長、山海嘉之筑波大教授らがいる。

11年度に教養教育を改革した筑波大。産業界などから講師を招き、起業のイロハを習得するだけでなく、それを「大学で学ぶこと」の意味を考える契機に「筑波なれば」と五十嵐教授みらいの会」と協力は考えている。

## 実践的な学びの機会

大学と企業の連携による人材育成の取り組みが活発化してきた。研究だけでなく、大学の教育にも企業が携わることで、学生は実践的な学びの機会が得られ、企業にとっては自社ブランドの浸透や採用活動への布石につながる。企業名を冠した「寄付講座」に加えて、最近では社会貢献の観点から正規の授業に企業が協力するケースが増えている。東京大学、東京工業大学、筑波大学の3国立大学の取り組みを紹介する。

**直接対話**  
レクトロニクス研究機 EIC 執行役員)と定構が主宰するこの「ナ」の効果を感している。7月28日、シャープノ量子情報エレクトロニクス特論」では、通「東大企業ラボ」は授業の環として「シ」常の講義に加え、機構「東大企業ラボ」は内企業ラボを構築する。シャープ、NEC、日立製作所、富士通研究所が持ち回りで企業講義を受け持つ。講義の種、試されていくようなところがあり、真剣勝負の場だ」と語る。東工大は16年度から、サイバーセキュリティ研究者と直接対話でき

## 企業、社会貢献の意識強く

筑波大のシリコンバレー発起業家トレーニング(7月23日)



シリコンバレー発の起業家トレーニング(シリコンバレー発)は、8人のNRI研究者が東工大の「特定教員」の肩書で講義を担当し、さらに大学院生の研究指導も行う。NRIはこれまで技術者向けに15年間、セキ

7月23日には、シリコンバレー発の起業家トレーニング手法である「リーン・ロインパッド」が開講した。初日は、つくばの研究者機関に在籍する研究者永田恭介学長自ら旗振り役を務め、学生の起業を支援する。筑波大発ベンチャーの数は東大に次ぐ多さ。筑波大出身の経営者には、LINE前社長の森川亮(東京)市つくばの、象徴で「都港区」社長や、ポケモン(同)の石原恒和社長、サイバーダイニングの社長、山海嘉之筑波大教授らがいる。

11年度に教養教育を改革した筑波大。産業界などから講師を招き、起業のイロハを習得するだけでなく、それを「大学で学ぶこと」の意味を考える契機に「筑波なれば」と五十嵐教授みらいの会」と協力は考えている。